

水量が少なければお気楽な沢に！？

## 飯豊連峰 大石川東俣川千代吉沢

田邊

【日時】 2009年10月19日(土)～22日(火)

【メンバー】L田邊、大野、小川

昨年のお盆、今年のお盆に続いて三度目の正直である。いずれも天候不順で昨年は大川出合で大増水で逃げたが、今年は道の駅・関川で雨に降られて東京にとんぼ返りとなってしまった。今回は連休天気予報もバッチリ安定しておりメンバーに恵まれたので満を持しての挑戦である。

9/19(土) 晴れ

前夜より出発し、関川の道の駅にて泊。翌朝、大石川東俣の登山口まで車で移動する。

第二吊橋まで登山道を歩き、橋を渡って左手の踏み跡から入渓する。さっそく天気がよく水が輝いていて沢に来た実感が高まる。

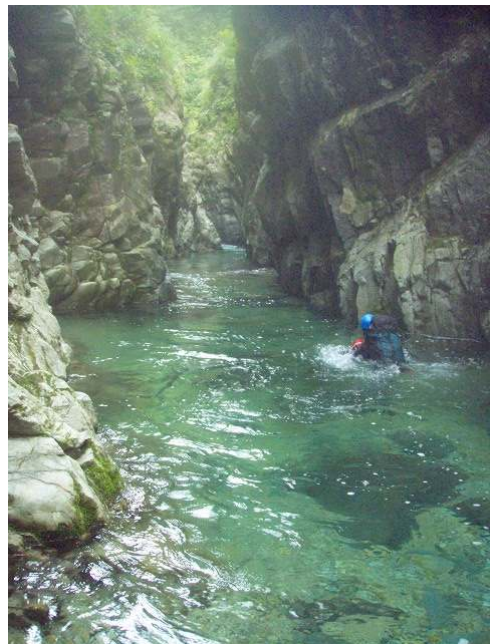
まずは時々現れる瀬を踏み跡を伝って巻いたり、越えていく。権内沢出合の2mほどの滝は大野さんがサクッと登っていく。この先の長い瀬は出来るだけへつって、飛び込みと泳ぎで越える。

広河原沢出合のあたりで、小休止。秋の日差しが優しく降り積もるようで、誘われてくる眠気にみんな負けていた。特に大野さんは眠気に惨敗という感じ。お疲れ様です。年に十回は来るというおっちゃんが「今日は釣れねえ」といって帰っていった。釣師は多く来ているようである。

ここから千代吉沢下流部のゴルジュが始まる。とにかく現れる淵や瀬を積極的に進む。シャツ一枚の自分には辛くて、先輩がたに先陣を越されてばかり。ウェットスーツを来年は買おう。

大沢出合の手前のゴルジュもほとんど巻かずに越えることができ、季節なのか今年が渇水なのかかわからないが、水量は少な目のようである。

もういくつ淵を越えたかわからなくなる頃、3段30mが現れる。ここは左岸よりロープを固定して灌木帯に入り、そのまま巻いて滝のすぐ落ち口にでる。灌木帯までが厳し



く、ガイドに多い右岸の方が時間はかかるが確実だったのかもしれない。

このあとも泳ぎとへつりを続け、ヨシノ沢が左から出合った先で砂地を発見し、幕営とする。田邊さんが日没ギリギリまで岩魚を釣って一人一匹の配給となった。ありがとうございます。

(小川)

9/20(日) 晴れ

今朝も天気予報どおりに良い天気。雨の心配はまったくないので気が楽だ。

朝、食事をしていると小川君が手の調子がおかしいという。手を握ることができないのだが開かないというのだ。手首も少しおかしい。昨日、どこかにぶついたり、挟んだりしていないかと聞いたのだが、そのようなことはないという。どうも昨晚の寝方が悪かったようで、寝違えによって手の自由が利かなくなったようだ。出発を遅らせてしばらく様子を見ることにした。その後、しばらくたっても改善の兆しは見えず、しびれなどの別の障害もなさそうなので様子を見ながら取り敢えず広河原まで行こうと いうことになった。

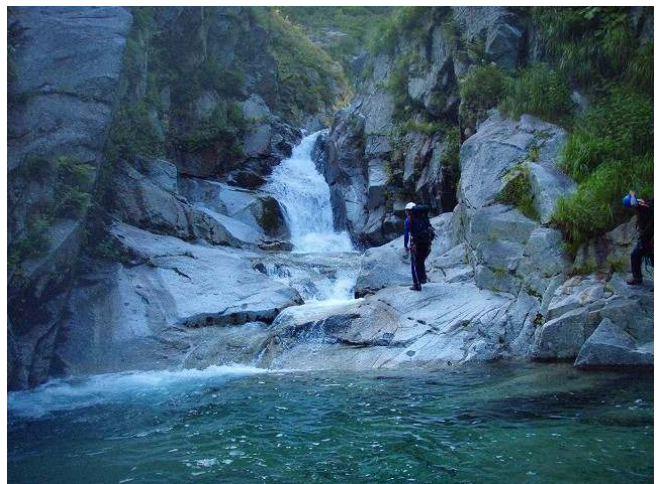


出発してすぐに兩岸が立ったゴルジュが始まる。朝から水に浸かるのは遠慮したいが、天気もいいですのですぐに暖かくなるだろう。2m 程度の落ち込みを大野君が小川君をショルダーで上げる。その後続く小滝も順調に越えていくと釜のある 8m 滝に出た。ここは右岸の多段の 15m 滝を持つ沢から続く 8m 滝、6m 滝も含めてまとめて高巻いた。

すぐにゴーロとなり下の河原の始まりである。下の河原が終わり再び兩岸が立ったゴルジュで泳ぎとなった。しかし、水量が少ないせいか足が微妙に

着くところが多いので気合いを入れるほどの泳ぎはない。左岸から入る三角ハゲ沢が入った先の 5m 滝を越えると右から 20m 滝が落ちているのが見える。ここは左岸から簡単に巻ける。その先に 2 つの大釜が続いているが、釜には悠々と泳ぐ岩魚が見えたのでしばし夕食の補給タイムとする。見えている魚は釣れないというが本当に食いつきが悪く、時間をかけた割には 2 匹しか釣れなかった。

1 つ目の大釜を左岸からへつって越すと 5m の滝をかけた大釜が続いている。ここは左岸







から滝の裏を這って落ち口の左側に登る。その先のゴルジュを過ぎるとよいよ広河原だ。日焼けするくらい天気も良いので気持ちが良い。時間もあるのでゆっくりと休憩して13時半頃に上部ゴルジュ帯の入り口に着いた。

上部ゴルジュ帯に入り3m滝、8m滝と順調に越えていくと10mネジレ滝が現れる。ここは左岸から巻いて越える。その先の6m滝を越えると釜を持った3m滝が左側から激しく水を落としている。ここは左岸から巻き気味に越える。その先にも同じように釜を持った3m滝が現れるがここは釜が深いのと泳いでも滝の横は這い上がれそうもないので右岸のクラックにキャメロット#1を決めて、アブミを使って小川君が登った。手の不自由な彼はキャメロットを決めるのに苦労していたが不自由なりに慣れてきたのだろうか、器用に岩を這い上がっていた。

8m滝を登り、次の10mナメ滝を順調に越えていく。さらにゴルジュの中に激しく流れる6m滝を水流に沿いに登る。その先の釜を持った4m滝を左岸から進むと深い釜の3m滝が現れる。ここは大野君がアクアステルスを効かせて空身で右岸の岩を強引に登った。私は疲れそうなのでお助けで釜を引いてもらい、滝の下を横切って滝の左から登らせてもらった。

その先の2段10m滝は登れそうもないので右岸を高巻き20mの懸垂で沢床へ。

大岩の2段10m滝を登ると右岸に良さそうな砂地があったので今晚の宿とすることにした。長い休憩をとったりしてゆっくりではあったが順調に進んだ一日であった。

(田邊)



9/21(月) 曇り時々晴れ

今日も良い天気。焚火の火を起して気持ちよい朝のひと時。

南の大沢手前のゴーロ滝を強引に登ろうとしていきなり2m落下。大沢出合の2段のナメ滝でも見事に滑る。朝は調子が上がらない。ナメ滝は右壁を慎重に、慎重に登り、念のため後ろにザイルを出す。

ゴーロを押し出して左から枝沢、正面から小沢が入り、本流は直角に右折。バームクーヘンのように層を作る特徴的な岩のゴルジュだが、兩岸は立ってくる。正面にルンゼを見て再度直角に左折すると立派な滝。小沢を登り、灌木と草付きのラインをトラバースすると、更に大きな直瀑がかかっているのが見える。そのままトラバースを続け、草付き斜面を点在する灌木に掴まりつつ降りると、落ち口に出た。田邊さん・小川君は5mの懸垂。落口から眺める空間は凄まじく、飯豊の奥深くにいることを実感する。

小滝を越えると、沢は再び穏やかになる。右岸から入る小沢は、北の大沢にして

は小さすぎるなあと思っていたら、左に曲がった先で滝となって北の大沢が入ってきた。飯豊の主稜線も穏やかに現れ、暖かな日差しの下でしばし休憩。

いくつかの滝を越えてしばらく行くと、ゴルジュの先で右側から 15m の滝が落ちる。どちらからでも登れ、難しくはないが高度感がある。小滝を越えると源頭の趣。

1200m では正面から枝沢が入り、15m 滝が右から落ちる。左壁を登れないかと小川君をけしかけるが、厳しいであろう。枝沢から左岸を高巻き。すぐに二股であるが、正面の枝沢の沢床が低く、本流は右岸からヒョングリ滝となって落ちている。この後は、難しいところもなく、ときに小滝を交えつつ穏やかな沢を歩いていくと、ヤブっぽくなり、目の前に草原が見える！と思ったころ、パイプが現れた。水源に入るといけないので、ここから踏跡をたどって頼母木小屋へ。穏やかな日差しの下、プシュッとビールを開けて完遂を祝う。

30 分ほど休憩し、ノンビリと稜線散歩。秋の日差しは柔らかく、さわやかな風が吹いている。今夜は杵差の小屋でゆったりと思っていたのだが……。近づくにつれ、小屋の前にはテントが、さらに頂上のカラフルな点、点、点……。入り口から中を覗くと、団体様で1階はすでに満杯。2階も多くの人。無理して詰めてもらえば入れなくもないのであろうが……。折から風も強くなり、外にはツェルトを建てる木もなし。

1時間ほどどうろうろしたが、無理に泊まるのは止めて、もう少し降りること

に。疲れが溜まっていた頃に加え、終わったと思っていたのが裏切られたショックで足取りは重い。美しい池塘の点在する山頂付近は美しかったが、疲れた体でトボトボと歩き、日が暮れかかるところ、千本峰の雨量計の傍に平坦地を見つけツェルトを張った。



(大野)

9/20(日) 曇り時々雨

天気予報で新潟方面は昼ごろから雨になるということだったので、下山にはたいした時間はかからないのだが、本降りになる前に下山しようということで早起きして出発したのであった。山は早めに天気が崩れてきたようで途中でザーと来たが雨具を着るほどではなかったので助かった。

下山後は道の駅・関川の温泉に入ってから、どうせ早めに帰っても渋滞にはまるのは目に見えていたので元会員の鼠ヶ関の仁さんに会いに行ったのであった。

案の定、帰りは渋滞のお尻を追いかける形でたいした渋滞にもはまらずに帰る事が出来た。

大野君、小川君という強力なメンバーが参加してくれたおかげで、昨年からの宿題を来年に持ち越さずに、充実した山行ができたことを感謝いたします。



(田邊)

【グレード】 5級

【行程】

9/19 第一吊橋(9:00)～入渓点(9:29)～大沢出合(11:41)～ヨシノ沢出合(16:04)  
～C1(16:10)

9/20 C1(7:50)～長者原沢出合(11:50)～南ノ大沢手前C2(16:00)

9/21 C2(7:45)～北ノ大沢出合(8:15)～20m滝上(9:18)～源頭小屋水源(12:20)～  
頼木小屋(12:35)～杵差小屋(14:50)～千本峰C3(16:30)

9/22 C3(7:00)～第二吊橋(8:08)～第一吊橋(8:30)

【地図】 長者原、杵差岳